

# NO! リニア

No. 12

2009年11月10日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

## 電磁波の健康被害は世界の常識！ 時計の針が止る磁力が「問題ない」レベルか？

リニアは、超伝導磁石の強力な磁力で浮上し推進します。超伝導磁石付近の電磁波は700ガウス（G）といわれ、宮崎実験線に試乗した小学生の時計の針が止まったとの報告があります。JR東海は、電磁波の基準を車内で20Gと設定し、山梨実験線では最大でも13Gであり「電磁波については国際基準に照らしても全く問題ない十分に低いレベル」との見解を明らかにしています。

JR東海がいう国際基準とは、世界保健機構（WHO）の国際非電離放射防護委員会（ICNIRP）が、1987年に電磁波の安全基準として50Gの見解を出しており、これを根拠に「全く問題ない」としていると思われます。

しかし、同時にWHOは「少ない実験を根拠にしたものであり確定ではない」と注意を促し、2001年には「3～4mG以上で小児白血病が2倍に増加する」との報告を行いました。欧米の疫学調査では、2mGの電磁波を短時間

被爆しただけでも細胞分裂に影響し、発癌の可能性がある」と指摘しているのです。

オール電化で話題になっているIHクッキング調理器の電磁波はメーカーによって違いますが、前面10cmの位置で100mGを越えているため、流産や認知症の危険が叫ばれています。リニアは、その130倍もの電磁波であり、まさに乗客はIHクッキング調理器の上に乗っているのと同じ状態なのです。事実、リニアに関連して動物実験に携わった東京慈恵医科大学助手の女性が、強力な電磁波を浴びて癌になったことが報告されています。電磁波の危険性はすでに疫学調査で立証されているのです。

また、世界で唯一リニアを運行している中国上海では、電磁波被害を訴えて住民が建設延伸に反対し中止になりました。

【表1】低周波磁場・被曝と流産リスク

(米国:リー論文 2002年)

女性の被曝(16mG以上)	リスク比*	95%信頼区間
全流産	1.8倍	1.2~2.7
初期流産+	2.2	1.2~4.0
感受性のある女性の流産#	3.1	1.3~7.7
定期的な被曝による流産		
全体	2.9	1.6~5.3
感受性のある女性#	4.0	1.4~11.5
初期流産+	5.7	2.1~15.7

\* 最大被曝磁場が16mG以上と16mG以下の場合の比

+ 初期流産とは、妊娠10週間以内の流産

# 以前に何度も流産しているか低受胎率の女性の場合

【表2】低周波磁場・被曝とAD病(アルツハイマー病と痴呆症)

(ICNIRP:アールボム論文 2001年)

集団研究・報告	研究数	相対危険度	95%信頼区間
研究全体での結果	5	2.2倍	1.5~1.7
臨床(病院)研究	2	3.2倍	1.9~5.4
人口調査・研究	3	1.2倍	0.7~2.3